

学位被授与者氏名	野崎 昌子 (のざき しょうこ)
論文題目	『ジェイン・エア』のポストコロニアリズム的意義 ——炎に身を投じる女性達——
論文審査結果の要旨	<p>『ジェイン・エア』といえば、フェミニズム的な評価がともすると一人歩きしてしまい、また、そのフェミニズム批評といえば主人公のジェインのみに焦点が当てられがちであった。そのような中、本論文が、リースの『サルガッソーの広い海』を援用することで、クレオール人のバーサの声なき声を拾い上げ、前景化し、作品における彼女の存在そのものの重要性を訴えている点は非常にユニークであり高く評価できる。更にバーサに焦点を当てて『ジェイン・エア』を再読することで、ブロンテが当時すでにポストコロニアル的共感力を作品の中で示していたということを提示し、ブロンテの先見性を論証することに成功しており、論文の目的は達成できているといえる。</p> <p>旧植民地出身の女性たちの悲劇は今日も続いており、そういう意味でも本論文は『ジェイン・エア』から現代においても通じる重要なメッセージを汲み取る、意義あるものとなっている。</p> <p>他にも、当時の「ガヴァネス」の仕事が「レディの地位で糧を得るための唯一の仕事」であったにもかかわらず、被労働者階級と労働者階級の両方から「異端」扱いを受けるといった、曖昧で孤独な仕事であったことから、ブロンテは階級を超えた男女の平等も訴えたのだという指摘も興味深い。</p> <p>『サルガッソーの広い海』の定義づけがなされていないため、論全体において曖昧な扱いになっている点、論の展開に強引さが見られる箇所がある点、他にも、日本語や表記の一部に問題がなくはない点等、不備はあるものの、論の主張自体は明確であり、テーマの面白さ（幽閉される存在を女性に限らず、男性も含めた植民地全体の問題、更には宗教も絡めたアイデンティティー追究の問題へと発展させられる可能性を秘めている）や上述の評価できる点等も考慮に入れると、修士論文としては十分評価できる。</p> <p>平成 28 年 2 月 25 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 3-320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(英米言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>